

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための課・年次内での重点目標(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための課・年次内での具体的方策(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況と今後の課題	中間評価	最終自己評価 年度末の達成状況	最終評価	総合評価	本年度の課題と次年度の方策
1 個別最適化を目指す、すべての生徒の学びを支える学習指導	総務課	姉妹校との国際交流を推進する。	インターネットを介して姉妹校と直接交流する機会を充実させることにより、生徒の意欲を引き出す。	・姉妹校オンライン交流の継続(R2 4回) ・国際交流活動に積極的に取り組む生徒のべ80人(R2 58人)	・姉妹校オンライン交流は1回、40人を対象に実施した。今後、3回の実施を目指す。これまでのオンライン交流のノウハウを生かし、姉妹校以外の海外の高校との交流の可能性を模索し、本校生徒の国際交流の機会を増やす。 ・昨年度から延期となっていた姉妹校訪問の代替行事として「倉南イギリスジュキャン」(校内5日間)を新規に企画する。	B	・カンミア高校とのオンライン交流を1回(40名)実施した。 ・県国際課 日中青少年交流事業へ生徒2名が参加し、県代表として英語でプレゼンをさせることができた。 ・異文化や多様性について学ぶ機会として、グローバル講演会を広報委員会の活動として実施した。 ・新規の取組みとしてエンパワメントプログラムを企画したが実施には至らなかった。	B		・海外との行き来ができない状況下において国際交流の気運を高めるグローバル教育を進める企画の創出が必要である。 オンライン国際交流校の開拓 国内留学企画の工夫 オンライン英会話
	教務課		・習熟度別講座、少人数講座を効果的に運用する体制を確立する。 ・新しい教育課程に対応した評価の在り方に関する研究(シラバス、年間指導計画の改訂、観点別評価の徹底)を行い、年2回報告する。	学校自己評価アンケート 「先生は生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85%以上を維持(R2 87.6%)、保護者肯定的評価80%以上を維持(同 83.4%) ・シラバス、年間指導計画の見直し、改定案の作成、周知 観点別評価についてそれぞれの教科での検討、見直し。	・今年度から実施している習熟度別講座の円滑な運用、成績処理ができています。生徒の学力向上のためにどのような習熟度別講座が効果的か等、教科間の情報共有などを行って研究する。 ・新しい学習指導要領と大学共通テストに対応した本校の教育課程を策定することができた。実際に大学が課す入試科目について研究し、対応できるように準備しておく。 ・シラバス、年間指導計画を見直し、新学習指導要領に対応したシラバス及び年間指導計画を作成できた。観点別評価について職員研修を実施できた。新しい教育課程でも円滑に実施できる観点別評価を研究していく。	B	・学校自己評価アンケート「先生は生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価87.8%(R2 87.6%)、保護者肯定的評価83.5%(R2 83.4%) ・シラバス、年間指導計画の見直し、改定案の作成、周知や観点別評価についてのそれぞれの教科での検討、見直しを行うことができた。	B		課長・副課長、チームリーダーの役割を明確にして各種業務の分担が必要である。そのためにも、今までの業務の見直し、マニュアル化などが重要になる。新課程の実施に伴ってPDCAサイクルを着実に回し、評価と改善を計画的に実施することが必要である。
	進路課	個に応じた多様な学習指導を進化させ、個々の学力を最大限に伸ばす。	・生徒個々の学習進捗に最適化された選択課題の指針を示す。 ・ICT教材などを有効に活用し、生徒の主体的な学びとリメディアルな学びを促進する。 ・入試問題研究を各教科で行い、3年次の実力考査の精度を高める。	・学校自己評価アンケート「先生は生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85%以上を維持(R2 87.6%)、保護者肯定的評価80%以上を維持(同 83.4%) ・スタディサプリ到達度テストの2回実施とその結果に紐付いた運動課題の配信、習熟度別選択課題の配信などの実施。 ・外部の入試説明会、研修プログラムへの参加、教科内での入試問題研究が行われている。また、外部模試と実力考査の分析のもとで高い相関がある。	・実力考査の結果を受け、到達度別の学習方法や、週末課題についても共通課題と選択制課題について研究を各教科に依頼している。積極的に導入している教科もある。 ・スタディサプリ到達度テストの1回目(3~4月)を実施。その結果を受けて、個別に複数回に分けて、運動課題の配信を実施した。今後、同テストの2回目(8月~9月)を実施予定。 ・大学入試問題の研究については駿台教育探究セミナーの視聴権を各教科2講座程度確保。現在教科毎に研修している。他にも教科独自の入試問題研究、実力考査の分析等に取り組んでいる。	B	・学校自己評価アンケート「先生は生徒の学力が伸びるように授業をはじめ様々な教育活動に取り組んでいる」の肯定的評価 生徒87.8%、(R2 87.6%)、保護者83.5%(R2 83.4%)各年次、到達に応じた層別学習方法を提示した。 ・スタディサプリ到達度テストを全年次春秋2回実施。個々の結果に紐づいた個別課題を配信した。 ・共通課題と習熟度別による自主課題の差別化、出し方の工夫などの個別最適化を進めている動きに生徒、保護者からの肯定的評価が増えている。ICT教材「スタディサプリ」は、生徒の主体的学習の一助となり学習意欲の喚起に結びついている。特に、推薦入試対策講座は、学校推薦型合格者数の大幅増に役立った。 ・学力向上委員会と連携し、各教科に大学入試問題研究を要請した。3年の実力考査について年次を超えた共同作問、分析、学力の評価指標としての高い精度を依頼した。校内実力の平均と10月記述模試の相関はほとんどの教科が0.70を超え、高い相関が見られた。	B		・教科内の積極的な取り組みにより、校内実力考査と外部模試の相関は高まってきたが、21世紀型スキルを測る学力(知識活用・思考判断・知識創造)の評価指標としての精度はまだ低い。更なる教科研究の機会を提供し、学力向上委員会とともに各教科へ働きかけていきたい。
	探究課	多様な学びを促進する授業づくりを推進する。	・年2回の授業公開と生徒授業アンケートを実施し、授業改善を図る。 ・定期教科会議(6回)を有効活用し、ICTを活用した授業力向上への提案・振返りの機会とする。 ・授業でのICT活用を推進し、生徒授業アンケートの項目の改訂により効果の検証を図る。	学校自己評価アンケート 「先生は生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85%以上を維持(R2 87.6%)、保護者肯定的評価80%以上を維持(同 83.4%)	・6月~7月に授業公開、生徒授業アンケートを実施した。授業アンケートでは、各教科の項目ごとの平均値を算出して振り返りを行い、個人及び教科の課題を明確にすることができた。授業公開期間に授業を参観した回数は一人平均2.7回であった。振り返りミーティングを計画的に設定する必要がある。11月の第2回授業公開では、同じ教科の教員が参観できるように時間割変更を行う。	B	・学校自己評価アンケート 「先生は生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価87.8%(R2 87.6%)、保護者肯定的評価83.5%(同 83.4%) ・11月授業公開では、同じ教科の教員が公開授業を参観し、教科会議で振り返りを行った。授業の工夫やねらいを教科内で共有することができた。また、授業を参観した教員が参観シートに記入して授業者にフィードバックすることに加え、クロームブックのJam Boardに授業者へのコメントを入力した(コメント数は約90)。その授業を参観していない教員とも情報交換ができた。	B		次年度への課題: ・思考力・判断力・表現力、探究する力を伸ばす ・多様な学びを取り入れた授業実践の研究 ・外部講師に指導・助言を依頼 ・定期教科会議の充実 ・目的の明確化による授業参観のさらなる推進
	1年次	個々の学力の的確な把握、個別最適な学習指導、自律的な学習の促進を図る。	・面談(年5回)を通して、年次全体で生徒個々の学力の特徴をつかむ。 ・担任から教科面談へつなげ、得意教科の伸長・苦手教科克服のための助言を継続する。 ・共通課題や選択課題のパターンを柔軟に設定する。	学校自己評価アンケート ・「先生は、普段からよく生徒を見て適切な助言をしてくれる」生徒肯定的評価85%以上(R2 1年次 85.9%) ・「先生は、生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85%以上(R2 1年次 86.6%) ・「自分の家庭での学習状況は十分である」生徒肯定的評価65%以上(R2 1年次 50.2%)	・面談を3回(4月、6月、9月)実施し、生徒個々の学習状況、興味関心、進路志望の把握に努めている。 ・ミニ進路検討会を持ち、年次教員全員で生徒の学力を検討した。難関大集会を実施し、ハイレベル模試受験から指導を開始した。定期考査前にはフォローアップ講座を計画している。 ・各教科、一人一台端末を活用して、効率的な学習ができるように工夫している。9月時点で基本的な操作は、教員・生徒ともできる状態になった。 ・学習実態調査では、1日平均218.7分(4月)から246.5分(6月)に、家庭での学習時間が増加した。入学当初と比べ、国数英の主要3教科にかけた時間が顕著に増え、家庭学習が定着してきた様子が見られる。 ・今後10月の科目選択に向けて、担任のみならず教科の担当者から助言をもらうよう促し、幅広く生徒が情報を得て選択できるようにする。	B	学校自己評価アンケート 「先生は、普段からよく生徒を見て適切な助言をしてくれる」生徒肯定的評価86.1%(R2 85.9%) 「先生は、生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価87.2%(R2 86.6%) 「自分の家庭での学習状況は十分である」生徒肯定的評価45.7%(R2 50.2%) ・授業や教科面談を通して、個々の学力に応じた適切な助言ができ、生徒と信頼関係を築きつつある。その一方、家庭での学習状況が十分でない(学習時間調査「日平均246分(6月)⇒198分(9月)⇒195分(11月)⇒209分(1月)。家庭での学習をより自律的・意欲的に行わせるために、それに自然につながるよりよい授業実践の工夫をしたい。また春季課題から、共通課題と選択課題(教科ごとに2つ以上から自分に合うもの1つを選ぶ)を設定する。	B		・学習実態調査結果の精査を行い、クロムブック世代の学習傾向を把握し、その指導法を柔軟に変えていく。生徒が家庭でも学習したいと思えるよう、授業の質の向上のための工夫をしていきたい。また、家庭での学習方法を継続的に行う。 ・クロムブック依存の危険性にも注意すべきである。学習時間が増えないのは、クロムブックを活用していることが影響している可能性がある。従来あった、教科書やノート・辞書などとじっくり向き合う時間を増やしたい。
	2年次	習熟度別授業、習熟度別課題を有効に活用する。	・生徒個々の学習状況にあった課題を設定する。 ・習熟度別講座を提案する。	学校自己評価アンケート ・「先生は、資料、説明会、面談を通じて適切な科目選択ができるように指導してくれる」生徒肯定的評価90%以上(R2 2年次 88.8% R2 1年次91.1%) ・「先生は、生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85%以上(R2 2年次 82.8%) (R2 1年次86.6%)	・到達度別学習を週1回3教科2講座で実施。 ・各教科で、共通課題と学力別課題を設定。 ・6月よりスタディサプリENGLISHを導入。 ・スタディサプリ到達度テストの1回目(3~4月)を実施。個人別結果による運動課題の配信、2回目(10月)を実施予定。 ・今後、スタディサプリを活用し、英語検定への挑戦を促す。	B	学校自己評価アンケート 「先生は、資料、説明会、面談を通じて適切な科目選択ができるように指導してくれる」生徒肯定的評価95.3%(R2 2年次 88.8% R2 1年次91.1%) 「先生は、生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価91.2% (R2 2年次 82.8%) (R2 1年次86.6%) 該当項目は十分に達成している。 ・スタディサプリ到達度テスト2回目実施後運動課題を配信した。	B		・「自分の家庭での学習状況は十分である」 「家庭でのスマホ使用はルールに基づいて使用している」 「M-PRIDE手帳を活用してスケジュール管理や目標設定を行っている」が下がっている。 ・受験に向け、計画的な自律した学習ができるよう、手帳やワークシート等の活用を工夫する。 ・英語検定のSOBTの受験は高額でもあり、生徒が受験に慎重にならざるをえない。(2年次受検者数41名)次年度英語科とも協議し、検定の校内での実施をし、受験を促したい。
	3年次	個に応じた指導を推進する。	個別添削等の取組また、スタディサプリ等の動画講座の効果的な利用も研究し、進路志望や習熟度に応じた課題や取組みを生徒に提案する。	学校自己評価アンケート 「先生は、生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85%以上(R2 2年次 82.8%) (R2 3年次 93.4%)	・夏季休業中に取り組むべき学習を、理解度に応じて提示することで、生徒自身が自主的な学習ができるように促した。 ・個別の添削指導、受験に向けた面接や教科に関する指導を現在も実行している。新たに物理・化学・生物の習熟度別授業により、生徒の進路希望に応じた指導が行われている。	B	学校自己評価アンケート 「先生は、生徒の学力が伸びるように授業改善に努めるなど、様々な教育活動に取り組んでいる」生徒肯定的評価85.1%(R2 2年次 82.8%) (R2 3年次 93.4%) 該当項目はほぼ達成している。 ・受験に向けて、年次の先生はもちろん、他の年次の先生からも個別の添削指導、受験に向けた面接や教科に関する指導を組織的に行うことができた。	B		面談等により生徒の個性や学習の状況の把握が進路保証につながる。文理別担任会などによる年次団での情報共有が鍵である。

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための取組・年次内での重点目標(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための取組・年次内での具体的方策(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況と今後の課題	中間評価	最終自己評価 年度末の達成状況	最終評価	総合評価	本年度の課題と次年度の方策
23年間を見通したキャリア教育計画に基づいた進路指導	進路課	進路実現につながる系統的なキャリア教育プログラムを構築する。	・3年間の進路指導計画を作成する。難関大志望者向けの指導計画の作成と実践を重点化する。 ・キャリアパスポートと連動したe-portfolioを研究、作成、整理する。	・高校3年間を見通した年間指導概要の作成。活動報告書作成のマニュアルを整備。 ○学校自己評価アンケート ・「進路相談」について、面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる」生徒肯定的評価90%以上を維持(R2 91.0%) ・「進路志望実現に向けて行われている生徒面談や保護者懇談は適切である」保護者肯定的評価85%以上を維持(同 86.3%) ・「学校設定教科「キャリア」や「総合的な探究(学習)の時間」等が自らの進路設計に結びついている」生徒肯定的評価80%以上を維持(R2 生徒82.3%) 同保護者肯定的評価75%以上を維持(同 79.2%)	・過去の進路指導実績をもとに、年度始めに3年間の進路指導計画(概要)を作成、提示。現在、その内容について実践および検証を行っている。 ・学校設定科目「キャリア I」を全員履修しない現1年次生については、従来取扱っていた内容の精選や縮小を探究課や1年次団との連携をはかりながら進めている。LHRや総合的な探究の時間の組み替えについては、今年度中での計画完成を目指している。 ・難関大志望者向けの志を高める集会指導や、実力考査、校外模試分析や個別面談、特別講座などを学年別に計画、実践している。(計画を予定していたオープンキャンパスツアー(京大)についてはコロナ下のため実施を中止。)	B	・3年間を見通した進路指導計画、学習指導のスタンダード、難関大育成マニュアルなどの基本形が完成。学力向上委員会を通じて各教科との最終調整を行っている。難関指導は、各年次志を高める集会や計画的な模試受験、事後指導(個別面談)等を適宜実施。3月には卒業生を招いての集會も計画している。 ・学校自己評価アンケート(生徒)「進路相談について面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる」の肯定的評価は88.5%(R2 91.0%)、(保護者)「進路志望実現に向けて行われている生徒面談や保護者懇談や進路説明会(WEB)は適切である」の肯定的評価は85.1%(同86.3%)。生徒からの評価はやや目標値を下回っているが、肯定的評価は依然として高い水準を維持している。 ・探究課と連携し、進路実現につながる系統的なキャリア教育プログラムの再編を行い、生涯にわたる学習の意欲や態度を育て、高い志のもとで主体的に進路選択できる能力の育成に必要な資質の形成に取り組んできた ・学校設定教科「キャリア I」や「総合的な探究の時間」やLHR等が自らの進路設計に結びついている」(生徒・保護者)の肯定的評価は生徒80.0%(R2 82.3%) 保護者76.6%(同 75.4%)。	A		・次年度(2年次生)、再編された系統的なキャリア教育プログラムの計画実践と総括を行い、プログラムの修正を完了できるようにする。 ・進路情報提供(進路だより、面談資料、進路説明会)やそれらを活用した指導、総合型や学校推薦型に対する組織的かつ計画的できめ細かい指導については、生徒、保護者からの評価こそ、やや前年を下回ったもの高い成果(国立総合型・学校推薦型選抜合格者の増加)をあげており評価したい。今年度の取組をしっかりと検証し、次年度からの特別入試に役立てていきたい。
	探究課		・総探とLHRを連動して進路指導計画と連動したキャリア教育プログラムを作成する。 ・キャリアパスポートと連動させてe-portfolioを作成するためのシステムを構築する。 ・キャリアプログラムを進めていく上で、図書館を活用した授業展開を計画し、探究スキルの紹介やワークシートの提供を通して探究学習を推進する。	学校自己評価アンケート ・学校設定教科「キャリア」や「総合的な探究(学習)の時間」等が自らの進路設計に結びついている」生徒肯定的評価80%以上を維持(R2 生徒82.3%) 同保護者肯定的評価75%以上を維持(同 79.2%) ・「教科・探究活動・特別活動等に図書館の資源や機能を活用した」(教職員)(新)肯定的評価70%以上	・進路課、教務課、年次と連携して、「キャリアI」を全員履修しない教育課程での「総合的な探究の時間」やLHRの年間計画を作成中である。「Minamixゼミ」(課題研究)への取り組みを1年次3学期から始める。 ・「スタディサプリの「活動メモ」、「アンケート機能」を活用し、活動の記録をデジタルで入力させる手順を明文化し、担任団、生徒で共有している。 ・1年次11月実施予定の「課題研究入門」で図書館の資料や機能が活用できるように、課題発見のためのシンキングツールの紹介や、情報収集の方法の指導などの計画を進めている。	B	学校自己評価アンケート ・「学校設定教科『キャリア』や『総合的な探究の時間』やLHR等が自らの進路設計に結びついている」生徒肯定的評価80%(R2 生徒82.3%) 保護者肯定的評価76.6%(同 75.4%) ・「図書室やラーニングコモンズを教科指導や探究活動・特別活動等に活用している」(教職員新項目) 肯定的評価76.4% ・令和4年度「総合的な探究の時間」、LHRの年間計画作成が完了した ・キャリアロードマップを策定し、3年間を見通した進路指導計画と連動したキャリア教育プログラムが完成した。	A		・新しい形で「総合的な探究の時間」LHRのプログラムを実施するにあたって、各担当課、年次団の中で目標・活動の意義を明確にして情報共有することが必要である。進路課・年次団と連携を取って修正しながら、更に改善を進める。 ・教科指導や探究スキルの習得のために、図書館の資料や機能を活用する機会を増やす。
	1年次	進路指導と連携した、一貫性のあるキャリア計画を推進する。	・授業や行事を通して、自己理解・地域理解を促し、2学期後半の「自分のキャリア構想」へつなげるよう指導する。 ・e-portfolioと進路・キャリアファイルの併用によって、一見断片的な活動をつなげていく。 ・進路カレンダーを作り、1年間(3年間)を見通した進路指導・キャリア教育を実施する。	学校自己評価アンケート 「学校設定教科「キャリア」や「総合的な探究(学習)の時間」等が自らの進路設計に結びついている」生徒 肯定的評価85%以上(R2 1年次88.5%)	・4月にStartup講演会・倉敷再発見フィールドワーク、7月にラーニングカフェを実施し、自己理解・地域理解の機会を創出した。 ・上記のような行事の振り返りをe-portfolioに記録させる仕組みができた。 ・「進路・キャリア学習の連携を心がけ、2学期の「私のキャリア構想」で融合的にまとめる流れになっている。 ・進路カレンダーを作り、1年間の進路・キャリア教育の流れが見渡せるようになった。	A	学校自己評価アンケート 「学校設定教科「キャリア」や「総合的な探究(学習)の時間」等が自らの進路設計に結びついている」生徒肯定的評価81.6% ・「進路」と「キャリア(探究活動)」を連携させ、新たなプログラムを始め、軌道に乗せた。評価基準である肯定的評価85%には達しなかったものの、探究活動を通して、生徒が自らの興味関心や目標とする将来像、地域社会の問題等と向き合う時間が十分取れた。まだまだその答え・解決策が、生徒自身の中で明確になっていない状態であることがアンケート結果に影響したと推測される。	B		・探究活動が、個々の具体的な将来像とまだ明確なリンクが持っていないようである。ラーニングカフェのように地域で働いている方、さらにグローバルに生きる方や卒業生(大学生・社会人)など、将来のモデルを意識させる機会の創出がもっと必要である。
	2年次	学校設定科目「キャリア I」、総合的な探究の時間、LHRの運動を図る。	多様な探究活動を設定し、自分の進路を実現していく資質、能力を育成する。	学校自己評価アンケート ・「進路相談」について、面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる」生徒肯定的評価90%以上(R2 2年次 87.5%) (R2 1年次 91.5%) ・「学校設定教科「キャリア」や「総合的な探究(学習)の時間」等が自らの進路設計に結びついている」生徒肯定的評価80%以上(R2 2年次 74.6%) (R2 1年次 88.5%)	・「キャリア I」では課題研究に取組中。7月には職場訪問を実施した。自らの研究に関連した質問等もでき、研究への意識が高まっている。コロナの影響もあり医療機関など未実施の訪問先もある。今後、代替講座等の検討を必要とする。 ・定期および実力考査ごとに担任面談を実施。適切な志望形成と困りごとの早期発見に努める。	B	学校自己評価アンケート ・「進路相談」について、面談などできめ細かく丁寧に指導してくれる」生徒肯定的評価92.6%(R2 2年次 87.5%) (R2 1年次 91.5%) ・「学校設定教科「キャリア」や「総合的な探究(学習)の時間」等が自らの進路設計に結びついている」生徒肯定的評価81.8%(R2 2年次 74.6%) (R2 1年次 88.5%) 時宜を得た面接が功を奏している。次年度に向け、面接資料を引き継ぐ。	B		・「講演会等により社会についての理解が深まった」の評価が低い。リモートのせいでTV番組を見ている(自分のことと思えない)との意見もある。最適な講師を検討、吟味する。
	3年次	進路目標の達成のため、学習習慣の確立を図る。	・M-PRIDE手帳により、毎日のスケジュール管理や目標設定等での活用を指導する。 ・クラスや教科での面談を通し、進むべき進路へ導く。	・「M-PRIDE手帳で、スケジュール管理や目標設定等での活用をした」年次アンケート 60%以上 ・学校自己評価アンケート「先生は、普段からよく生徒を見て、適切な助言をしてくれる」生徒肯定的評価90%以上(R2 86.4%) (R2 2年次80.2%) (R2 3年次 93.0%)	・4月に行った学習実態調査は222分であり、今年1月の204分から増加した。春闘祭後の気持ちを切替え、学習時間確保のために年次集会を行った。今後、文理別の担任会議を行い、一人一人の生徒の情報共有を綿密に行う。また入試に向けて、年次だけでなく、年次を超えた受験体制をつくり、継続的に指導していく。 ・M-PRIDE手帳のアンケートは未実施。今後も、M-PRIDE手帳を入試のスケジュール管理および自分の学習の計画などに活用するように呼びかけていく。現在、生徒の進むべき進路に向けて、きめ細かい担任面談を実施している。	B	学校自己評価アンケート ・「M-PRIDE手帳で、スケジュール管理や目標設定等での活用をした」年次アンケート 51% ・学校自己評価アンケート「先生は、普段からよく生徒を見て、適切な助言をしてくれる」生徒肯定的評価84%(R2 86.4%) (R2 2年次 80.2%) (R2 3年次 93.0%) ・昨年度2年次の80.2%から、肯定的評価が増加した。この理由として進路に向けての担任・教科担任から適切な面談が考えられる。 ・国立大学総合型・学校推薦型入試合格者46名/84名(合格率54.8%) (昨年度末31名/79名; 合格率39.2%) 国立大学総合型・学校推薦型入試の合格者数及び合格率が大幅に増加した。	A		・「M-PRIDE手帳で、スケジュール管理や目標設定等での活用をした」の項目は残念ながら昨年度からは肯定的評価が減少した。今年度、年次集会リモートで行われることも多いことなどが考えられる。時間管理や目標設定についての意義等を繰り返し伝える必要がある。

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための取組(めざす具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための取組(教育活動)	評価基準	中間期の達成状況と今後の課題	中間評価	最終自己評価 年度末の達成状況	最終評価 評価	総合評価	本年度の課題と 次年度の方策
3 自律性と豊かなつながりを生み出す生活指導	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立を図る。 生徒会活動の活性化を図る。 健康管理意識の高揚を図る。 校内美化の推進を図る。 不適応の早期発見と早期援助に努め、年次団会議等での情報共有を図る。 生徒の多面的な理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気な「あいさつ」のできる学校を目指すため、生徒会や風紀委員会等による活動を活性化させる。また、校則の改定にも着手する。 ・生徒が主体的に部活動や学校行事へ参加し、企画運営にも積極的に取り組むように促す。鞆岡祭についても組織を見直し、生徒による運営を促す。 ・感染症予防の徹底を図るため、保健委員会を中心に生徒への働きかけを強化する。 ・清掃時間の変更に対応して、整美委員会を中心に校内美化への意識を強化する。 ・教職員の研修や諸活動を通じて、不適応症状や不適応状態にある生徒に対する知見を広め、教職員の生徒理解力を高め、指導力を向上させるための支援を行う。 ・開放的で相談しやすい相談体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート ・「社会のマナーやルール・校則について、指導が適切に行われていると感じる」生徒肯定的評価85%以上(R2 87.2%) ・「部活動から満足を得ている。またはそのような生徒が多いと感じる」生徒肯定的評価85%以上(R2 80.2%) ・「鞆岡祭をはじめとする学校行事に満足している」肯定的評価85%以上(R2 86.5%) ・ボランティア活動などに参加しやすいうに配慮されている。生徒肯定的評価80%以上(R2 74.4%) ・「学校は、授業や行事などを行う際に、生徒の健康や安全に配慮している」生徒肯定的評価90%以上(R2 91.6%) ・「清掃やごみの分別処理など、環境を考えて行動している」生徒肯定的評価90%以上(R2 93.5%) ・生徒理解・生徒指導力を高めるための教職員の研修会を計画・実施 ・「悩んだり、困ったりした時に先生やスクールカウンセラーに相談しやすい環境が整えられている」生徒肯定的評価75%以上(R2 71.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員会によるあいさつ運動を毎月2回継続的に行っている。校内でもあいさつができる生徒が増えてきている。 ・冬に向けて、校則の改定を予定している。 ・1年次から3年次まで104名からなる鞆岡祭実行委員会を組織し、生徒が主体的に企画・運営を行い、素晴らしい鞆岡祭となった。 ・緊急事態宣言下における感染症予防の更なる徹底を、放送無線部や保健委員会からの生徒の呼びかけや教職員の巡視等により行い、強化ができています。 ・全校清掃ということもあり、校内美化への意識は維持されている。 ・整美委員会は清掃状況調査を3回実施した。今後この調査の結果を委員から担当や担任に伝えることで清掃への意識の変化をはかる。水曜日の簡易清掃のやり方が課題である。 ・週一度、教育相談チーム会議を行い、全学年の生徒情報の交換・共有をはかっている。教育相談が必要と思われる生徒にはカウンセリングを勧めるなどした。教師が生徒の悩みや相談を早期に発見できるように第3回定期考査中に教育相談研修会を予定している。 ・毎月、2種類の「たより」を発刊し、教育相談についての情報を発信している。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育相談員3人の専門家の相談に応じられる体制もできた。教育相談の活用状況は昨年度35件であったが、本年度は9月22日現在34件であり、昨年度より増加している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会のマナーやルール・校則について、指導が適切に行われていると感じる」生徒肯定的評価87.7%(R2 87.2%) ・「部活動から満足を得ている。またはそのような生徒が多いと感じる」生徒肯定的評価75.7%(R2 80.2%) ・「鞆岡祭をはじめとする学校行事に満足している」肯定的評価88.3%以上(R2 86.5%) ・ボランティア活動などに参加しやすいうに配慮されている。生徒肯定的評価70.2%(R2 74.4%) ・「学校は、授業や行事などを行う際に、生徒の健康や安全に配慮している」生徒肯定的評価94.5%(R2 91.6%) ・「清掃やごみの分別処理など、環境を考えて行動している」生徒肯定的評価94.1%(R2 93.5%) ・「悩んだり、困ったりした時に先生やスクールカウンセラーに相談しやすい環境が整えられている」生徒肯定的評価71.6%以上(R2 71.5%) ・生徒理解・生徒指導力を高めるための教職員の研修会を計画・実施した。 ・生徒会活動では生徒が主体となって校則の改定に取り組み、タイツ着用を許可することとなった。また新たに1年次から3年次生まで104名の生徒が参加する新たな鞆岡祭実行委員会が組織された。 ・生徒が主体的に企画・運営を行い、素晴らしい鞆岡祭となった。 ・緊急事態宣言下における感染症予防の更なる徹底を、放送無線部や保健委員会からの生徒の呼びかけや教職員の巡視等により行い、強化ができた。今後も継続した取り組みを行う。 ・週一度、教育相談チーム会議を行い、全学年の生徒情報の交換・共有をはかっていた。教育相談が必要と思われる生徒にはカウンセリングを勧めるなどした。教師が生徒の悩みや相談を早期に発見できるように第3回定期考査中に教育相談研修会を行った。 ・毎月、2種類の「たより」を発刊し、教育相談についての情報を発信した。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・教育相談員3人の専門家による相談体制ができた。教育相談の活用状況は57件であり、昨年度より増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・風紀委員会によるあいさつ運動を毎月2回継続的に行ってきたが、満足のものではない。今後も運動を継続するとともに、各クラスごとに呼びかけを行い、更なる徹底を図る。 ・全校清掃ということもあり、校内美化への意識は維持されている。整美委員会は清掃状況調査を3回実施し、その結果を委員から担当や担任に伝えることで清掃への意識は高まった。水曜日の清掃については次年度早い時期に他の課とも協議し教職員間の共通理解をはかる。 	
	1年次	<ul style="list-style-type: none"> 多様性を尊重する精神を育む。自由に思考・発想できる雰囲気づくりを進める。仲間と協働する精神を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や行事を通して、多様性を理解し、互いから学び、協働する姿勢を育成する。積極的な挑戦の機会を設け、失敗経験も肯定的に捉えさせ、次につなげさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート ・「倉敷南高校に入学して良かったと思う」生徒肯定的評価85%以上(R2 1年次89.5%) ・「本校には1人ひとりが尊重され、周りから受け入れられていると感じられる雰囲気がある」同85%以上(R2 1年次 83.0%) ・「私は自分に誇りを感じたり、ものごとを成し遂げる能力が身についてきていると思う」同85%以上(R2 1年次 75.4%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次集会で、継続的に「多様性」の尊重について講話している。それを受け入れる素地ができてきた。 ・鞆岡祭展示発表は、生徒の発想・工夫を尊重し、伸び伸びした発表ができた。同じサブテーマでも内容が多岐にわたっていた。順位はついたものの、級友と1つの行事を成し遂げた自信や協働意識を、年次集会以て共有できた。また授業再開時に、意欲的な雰囲気を感じられた。 ・鞆岡祭のみならず、英語テスト、レターコンテストなど、生徒を表彰する(褒める)場面を創出し、前向きに挑戦する意識を高めている。 ・今後も、新たなことに挑戦したり、自尊心を高めたりできる機会を(企画や行事を)定期的に創出することが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート 「倉敷南高校に入学して良かったと思う」生徒肯定的評価 85.9% 「本校には1人ひとりが尊重され、周りから受け入れられていると感じられる雰囲気がある」生徒肯定的評価88.5% 「私は自分に誇りを感じたり、ものごとを成し遂げる能力が身についてきていると思う」生徒肯定的評価72.4% ・多様性を尊重する雰囲気作りは成功しつつある。その一方で、まだまだ新たなことに挑戦する機会が比較的少なく、それを経て生徒が自信を持てる状況を生み出せていない。スキー合宿に代わる代替行事を計画したが、中止となっている。コロナ禍とはいえ、そうした機会(企画や行事)を定期的に創出したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 年次団行事の企画・実施により、仲間と協働する機会も増やし、企画達成による成功体験を通して自己肯定感を持たせる。またそうした機会に本校への帰属意識を持たせ、愛校心の育成を図りたい。 	
	2年次	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性を伸ばすために、生徒が主体的に活躍できる場面や仕組みづくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のエネルギーがプラスの方向へと向かうように学年でのLHR等を適切に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート 「鞆岡祭をはじめとする学校行事に満足している」生徒肯定的評価80%以上(R2 2年次 77.2%)(R2 1年次 90.5%) 「社会のマナーやルール・校則について、指導が適切に行われていると感じる」生徒肯定的評価85%以上(R2 2年次 80.2%)(R2 1年次 89.5%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に学年ミニスポーツ大会を実施。 ・8月に修学旅行の中止を決定。代替行事の検討。今後、生徒が旅行者との話し合いをし、企画するなど、生徒の考えを取り入れた行事を計画する。 ・鞆岡祭アンケート「達成感を得た」90%を超えた。縮小された行事であったが、委員に立候補するなど積極性が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート 「鞆岡祭をはじめとする学校行事に満足している」生徒肯定的評価90.5%(R2 2年次 77.2%)(R2 1年次 90.5%) 「社会のマナーやルール・校則について、指導が適切に行われていると感じる」生徒肯定的評価89.2%(R2 2年次 80.2%)(R2 1年次 89.5%) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行中止に伴う生徒の士気や意欲の低下を回避できた。 ・行事や活動で委員を積極活用した結果、達成感や肯定感も高まっている。次年度も同様とする。 ・教室での普段の様子の観察や生活アンケートで出た生徒の記述内容に素早く対応した結果が出ている。次年度も同様とする。 	

本年度の重点目標	分掌	本年度の重点目標を達成するための 課・年次内での重点目標(めざす 具体的な姿)	本年度の重点目標を達成するための 課・年次内での具体的方策 (教育活動)	評価基準	中間期の達成状況と今後の課題	中間 評価	最終自己評価 年度末の達成状況	最終 評価	総合 評価	本年度の課題と 次年度の方策
4 組織的な広報活動による開かれた学校づくり	総務課	組織的な広報活動を計画的に行う。	・中学校や学習塾への訪問や広報資料配布による情報共有を計画的に行う。 ・HP(学校紹介動画を含む)を更新し、学校案内をリニューアルする。	・中学校や学習塾へ広報資料を年6回配付する。(前年度2回配付) ・HPの閲覧回数が前年比の1.5倍に増加する。	・新たに作成した季刊情報紙「南風」も形式が整い、6月と9月に発行し配付した。ホームページのリニューアルがほぼ完成し、ブログ更新も業務として定着してきた。 ・ホームページの閲覧回数は、昨年度までは月10万回程度であったが、7月に過去最高の20万回に達した。さらに8月には30万回を超え、前年比4倍となっている。 ・今後、学校紹介の動画コンテンツを増やしていく。	A	・「カンミア通信」に加えて季刊情報紙「南風」を作成し、中学校や学習塾へ1月末までに5回配付した。 ・ホームページの閲覧回数が飛躍的に増加し、すべての月で前年比の2倍を超えた。動画コンテンツやブログの投稿は、本校生徒の保護者にとっては学校生活の様子を知る機会になるだけでなく、開かれた学校づくりとして中学生やその保護者への情報提供となり、活動する本校生徒の自己肯定感にもつながっている。	A	A	・南高の今を届ける季刊情報紙「南風」の配付を継続する。 ・システム化されて効率的になった行事写真の撮影やブログ投稿作業が今後も持続できるよう業務分担を図り、一部の教員に負担が集中しないようにする。 ・部活動や学校行事の動画作成は、生徒会や委員会の活動との連携の可能性を探る。
	教務課	教務課以外の分掌と連絡、連携を深め、チームとして仕事の分担を進める。	・学校行事等の見直しを検討し、倉敷南高校の教育活動を積極的に公開する。 ・複数回、学校説明会等に出向き倉敷南高校について情報提供を行う。	・学校自己評価アンケート「本校の教育活動について、適切に情報が発信されている」保護者の肯定的回答85%(R2 86.8%) ・複数回学校説明会等に出席する。	・コロナ禍の状況下で、行事の見直しや生徒の欠けに関する報告、健康管理の報告等、他の分掌と協議・協力して、臨機応変に対応できた。また、新型コロナに関連した情報をブログに公開したり、メール配信したりすることができ、保護者と連絡を密にすることができた。 ・他の分掌等と分担して、7月中に2回外部の説明会に参加し、学校説明を行うことができた。	A	・学校自己評価アンケート「本校の教育活動について、適切に情報が発信されている」保護者の肯定的回答87.7%(R2 86.8%) ・私塾主催の学校説明会等に複数回参加し、広報活動に努めた。	A		新型コロナウイルス感染症による行事の急遽見直しなどがあったが、円滑に変更できた。また、各行事の代替行事にも取り組むことができた。 学校全体がチームとなって、広報活動に取り組むことができた。教育課程や成績など生徒の活動の成果を保護者へしっかりと伝える新しい方策(シラバス・年間指導計画のWeb公開など)を実施していく。
	1年次	本校の教育活動を周知する機会の創出し、その魅力と成果の共有を図る。	・年次通信の定期的発行 ・PTA総会、保護者懇談、進路説明会等での対面機会の有効利用 ・オンラインを利用した新たな活動報告方法の創出する。	学校自己評価アンケート ・「子どもたちは本校の教育目標(『自律・友愛・進取』の精神を實踐し、グローバル社会で貢献・活躍できる人を育てる)を理解し、南高生らしく日々の活動に取り組んでいる」保護者肯定的評価85%以上(R2 1年次 81.3%) ・「倉敷南高校に子どもを入学させて良かったと思う。同保護者肯定的評価85%以上(R2 1年次 94.0%) ・「本校の教育活動について、適切に情報が発信されている。同保護者肯定的評価85%以上(R2 1年次 86.0%)	・1学期に年次通信を2回発行した。今後も学期に2回発行し生徒への情報発信を行う。生徒の一人一台端末活用を保護者にも共有してもらったため、年次通信をオンライン配信した。 ・PTA総会に代わるオンライン資料説明会で、主任のオンライン説明の後、早めの顔合わせの意図で、各クラス担任から挨拶動画を配信した。 ・保護者懇談会では、年次内で必要資料を作成し、短時間で効率的な話し合いができるよう準備した。	B	学校自己評価アンケート 「子どもたちは本校の教育目標(『自律・友愛・進取』の精神を實踐し、グローバル社会で貢献・活躍できる人を育てる)を理解し、南高生らしく日々の活動に取り組んでいる」保護者肯定的評価88.8% 「倉敷南高校に子どもを入学させて良かったと思う。保護者肯定的評価90.6% 「本校の教育活動について、適切に情報が発信されている。保護者肯定的評価90.6%	B		・コロナ禍のため、保護者への情報提供はオンラインが中心となったが、適切に発信ができた。その一方で、南高の良さ、また生徒の頑張っている姿を、より頻繁に発信していく必要がある。保護者へのアピールを増やして、生徒とともに愛校心を持ってもらいたい。
	2年次	本校の教育活動の魅力発信することに努める。	オープンスクールで、本校生徒が中学生に倉敷南高校の魅力語る。	学校自己評価「倉敷南高校に入学して良かったと思う」生徒肯定的評価80%以上(R2 2年次 78.5%)(R2 1年次 89.5%)	・夏季オープンスクールにて、広報委員が中学生に直接話しかけることができた。 ・秋季オープンスクールはボランティアスタッフ制だが、多くの参加を促す。	B	学校自己評価「倉敷南高校に入学して良かったと思う」生徒肯定的評価85.1%(R2 2年次 78.5%)(R2 1年次 89.5%)	B		・オープンスクールの縮小により、ボランティアとして参加した生徒が大幅減となり、目標は達成したが前年度より評価が下がった。 ・HPの記事づくりに携わる、出身中学校でPRする等を検討する。